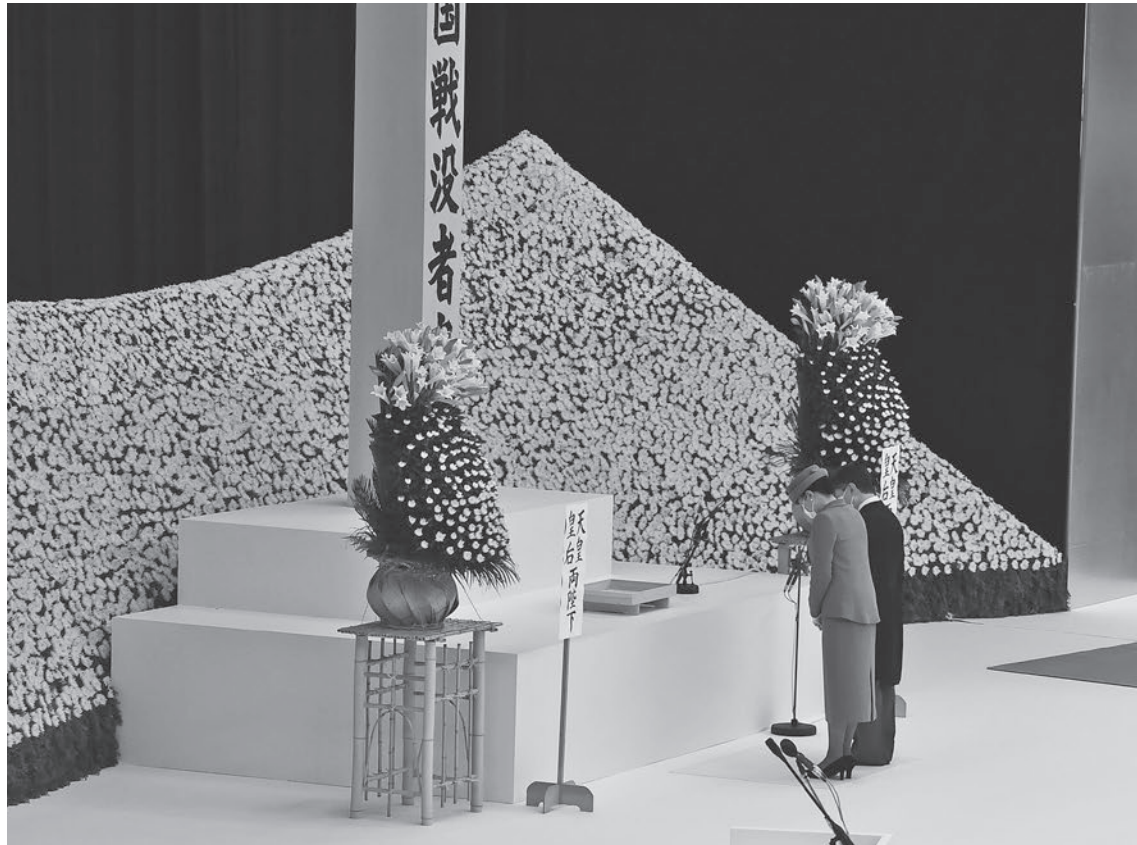


全国戦没者追悼式



一般財団法人
徳島県遺族会

会報

発行所
徳島市雑賀町
東開21番地1
一般財団法人
徳島県遺族会
TEL (088) 636-3212
FAX (088) 636-3213
<http://izokukai.jp/>
発行責任者
坂千代 克彦
印刷
グランド印刷(株)

七十六回目の終戦記念日を迎えた八月十五日、政府主催の全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開かれた。新型コロナウイルスの影響により、会場のある東京都が緊急事態宣言下での開催となったため、遺族や来賓などの参列者を昨年よりもさらに大幅に絞った開催となった。追悼式には天皇、皇后両陛下をはじめ、菅義偉内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁長官など各界代表、全国の戦没者遺族、百八十五人が参列。菅総理の式辞の後、正午の時報を合図に参列者全員で一分間の黙とうをささげた。天皇陛下のお言葉（別掲のとおり）を賜ったのち、衆議院議長、参議院議長及び最高裁判所長官、遺族代表として柿原啓志さん（八十五才）〓兵庫県〓が追悼の辞（別掲のとおり）を述べた。

東京都が緊急事態宣言下であり、県境をまたぐ移動を控えるよう呼びかけられていたこともあったため、本県からは残念ながら不参加となった。

天皇陛下おことば

本日、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来七十六年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられました。多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症の厳しい感染状況による新たな試練に直面していますが、私たち皆がなお一層心を一つにし、力を合わせてこの困難を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります。

追悼の辞

本日ここに、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、各界代表をはじめ、全国各地から遺族代表が集い、全国戦没者追悼式が厳粛に執り行われるに当たり、戦没者の遺族を代表して、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

顧みますれば、先の大戦が終りを告げてから七十六年という時をかぞえてまいりました。しかし私たち遺族が、国の為に戦場に赴き、無念にも散華された戦没者の方々のことを忘れることはありません。歳月が過ぎ、時代の名前が変わり、多くの人々の心の中に戦争というものへの意識が薄れゆく今日であっても、なお、私たちは失った家族のそのおもかげをもとめ、思いを馳せております。

戦後の苦しみの中にいた老いた父母、兄弟姉妹、幼子を抱えた戦没者の妻たちが、遺族会を結成致しました。そして、その悲しみを力に変え、日本の平和を、日本の繁栄を、祈ってまいりました。しかし、私たち遺族も時の流れとともに年老いてまいりました。

これからの次世代の方々へと、遺族の思いをつなげていくために私たちは今一度力をあわせ、平和の大切さを伝えようとしています。

らす人々と同じように、ごく普通の生活をすごしていた方たちであつたことを、確かな人生が、そのお一人おひとりにあつたことに、どうか気が付いていただきたいのです。そして、その方たちの命が無残にも途中で消えてしまった、国の礎となられたその方たちに、感謝の心を寄せていただきたいのです。

このことは決してわすれてはならない、とても大切なことなのです。

今は戦後生まれの方が八割以上にもなりました。追悼式や慰霊祭といった戦禍の記憶と教訓を伝えていく機会が少しずつ失われつつある今、本日の様な厳粛な追悼式を挙行していただき、遺族を代表して、厚く御礼を申しあげます。全国の遺族がこの追悼式が行われているときに、心静かに故人をしのび、冥福を祈り、当時の様々な出来事が脳裏にうかび、胸に迫りくるおもいに涙を流していることでしょう。

私たち遺族は、平和の大切さを確かに次世代へと継承するため、これからもいっそう努めてまいります。終わりに臨み、ご英霊のご冥福と日本の平和を祈念して、追悼のことばといたします。

令和三年八月十五日
全国戦没者遺族代表 柿原啓志

ホームページ随時更新中!! (R 3.8.31 現在)

アクセス数 115,620

各種行事、記念館の語り部事業、慰霊巡拝等の最新の情報をお知らせしています。携帯・パソコンの検索欄に

徳島県遺族会 もしくは 徳島県戦没者記念館 と入力

ホームページのアドレス

URL <http://izokukai.jp/>

携帯電話のバーコードリーダーで右記 QR コードを読み込んで下さい。



語り部事業のご案内

徳島県戦没者記念館にて

毎月第2土曜日開催 (13:30 ~ 14:30)

9月11日(土) は延期

(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為)

10月以降の語り部についてはホームページにて開催の有無を掲載いたしますので、ご確認をお願いします。

携帯電話のバーコードリーダーで

右の QR コードを読み込んで下さい。



徳島県護国神社例大祭

大幅に縮小して斎行予定

護国神社では、左記日程により恒例の「例大祭」が斎行されます。

この祭典は、わが国の平和の礎となられたご英霊に対して、感謝と慰霊の誠を捧げる大切なお祭りですが、昨年からの新型コロナウイルス感染症が未だ収束しておりませんので、ご遺族皆様の健康と安全を考慮し、今年も規模を大幅に縮小して斎行いたしたく存じます。

本来であれば、ご遺族皆様にご参列いただくところではございますが、遺族会各地区会長様に御代表としてご参列いただきたく存じますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

記

一、日時

令和三年十一月二日(火)

午前十時三十分(正午終了予定)

一、玉串料 一千元

ご遺族皆様には、当日祭儀が斎行されます時間帯にご遥拝下さいますようお願い致します。



お問合せ

徳島県護国神社社務所
電話 088 (669) 3090

令和三年度 徳島県戦没者追悼式が開催される

令和三年八月二十四日（火）、県戦没者追悼式が、あわぎんホール（郷土文化会館）において、実行委員会（本会ほか県内各種団体で構成、会長は飯泉県知事）主催で厳粛に開催された。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、例年より規模を縮小しての開催となったが、各地区遺族代表をはじめ、県知事、県議会議長、市町村長及び市町村議会議長、県内各種団体代表者ら約百五十二名が参列した。

追悼式は県婦人団体連合会藤田会長の開式の辞で始まり、国歌演奏、そして戦没者に対して御霊の平安を祈る黙禱を捧げた。

続いて、飯泉県知事が式辞において「終戦から七十六年もの歳月が過ぎた今、私たちは、改めて先の大戦がもたらした言葉では言い尽くすことのできない大きな犠牲と深い悲しみを振り返り、恒久平和の実現に向け、不断の努力を積み重ねていくことが必要である。戦争体験者の話に耳を傾け、戦時の資料や遺品から当時の人々の思いを感じ取り、次の世代に継承しなくてはならない。」と述べた。

追悼の辞は、徳島県議会議長から岩丸正史議長、徳島県市長から内藤佐和子、徳島市長、徳島県町村会から影治信良、美波町長、県商工会議所連合会から寺内カツコ会長、そして最後に、戦没者遺族を代表して本会坂千代会長が追悼の言葉を申し述べた。

坂千代会長による遺族代表の言葉

戦時中の苛烈を極めた日々は遠く去り、国民の弛（たゆ）まぬ努力により復興・発展を遂げた日本は、二十一世紀、平和国家として国際的な地位、信頼を確かなものにしております。

諸霊におかれましては、こうした現在の我が国の平和と繁栄の礎として、戦火にまみれ、病に斃れ、戦場の露と消えられたのであり、その御心は、祖国と家族の安寧を一心に願っていただけたことを、私たちが決して忘れてはおりません。

私たちが戦没者遺族は、諸霊の思いを受け継ぐ者として、声なき声を受けとめ、世代を超えて継承し、平和国家・日本を、その繁栄を、護り続けて行かねばならないと強く



念じております。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模を縮小しての開催となりましたが、県内各界の代表者の皆様、会員の方々にご参列いただき、徳島県戦没者追悼式が開催されました。私たちが遺族にとりまして、この上もない喜びであります。

さて、本会は今年、創立七十周年を迎えます。これまで海外慰霊巡拝や追悼式の実施、靖国神社への参拝や各種研修会事業などの通常事業に加え、護国神社の移転、戦没者記念館の建設、戦没者を見送った家族像の建立、出征を見送る家族の像の靖国神社奉納など様々な事業を行って参りましたが、これらの事業を記録し、次世代へと繋ぐため「徳島県遺族会七十周年記念誌あしたへⅡ」を令和三年三月に発刊いたしました。

また、各市町村の追悼式・慰霊祭への児童生徒の参列につきましては、関係各機関の皆様のご御理解と御協力により、県下二十四市町村のうち二十一団体を超える市町村で児童・生徒の皆さん

の参列をいただけるようになりました。これからも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。どうか、これらの私たちの取り組みに対しても、戦没者諸霊のご加護を賜りたいと存じます。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

この他にも、戦争を知らない世代に、戦争と平和を考える機会を提供し、「戦没者を顕彰する心」を広げてまいりたいと考えております。

第七回「平和作文コンクール」 最優秀賞受賞作文 「あしたへ」

徳島中学校二年 神農 美和さん



毎年八月十五日になると「終戦の日」に関するニュースを目にする。徳島も被災したことは知っていたが、その威力がどれほどのものだったのか私には想像すらできなかったため、まずはその事実を知ろうと父と二人で護国神社にある徳島県戦没者記念館「あしたへ」を訪れた。

記念館には原形をとどめていない弁当箱や水筒、焼けて穴のあいた手紙が展示されており、地図やパネルで戦争について詳しくまとめられていた。特に約八千枚の遺影の多さと、そこに飾られていた青年たちの年齢が私の兄とさほど変わらないことに、背筋がゾクゾクとしたのを覚えていた。同時に、背筋がゾクゾクとしたのを覚えていた。同時に、それらを見たとき、いつも隣にいる友人の顔、朝送り出してくれる家族の顔など、私の日常に溢れる沢山の表情が浮かんできた。友達とふざけ合ったり、兄弟と喧嘩したりすることも、今を生きているからこそなのだと思えて気がした。

私たちはそんな当たり前のことを忘れてしまいうくら、充実した生活を送れている。時代に刻まれた悲惨な事実がこの先消えることはないと思わなければならない。徳島大空襲から七十年以上経った今、戦争を知らない人が八割、つまりほとんどの人が戦争を知らないことになる。これからの時代を担っていく人が何も知らないままではいけないのだから。戦争について知ること、見て聞いて学ぶだけではなく、自ら考え行動することもある。

今の私たちには何が出来るだろうか。私たちがはたして「私」にできることを考えたい。いつ始められるだろうか。いつからではなく、「あした」から始めよう。大袈裟なことや難しいことではなくても、例えば戦争に関する本を読むことや、家族で話し合う機会をもつことなら出来る。当たり前に続く平和ではなく、平和でありつづけなければならぬ。「あした」を信じて…。

地方だより

令和三年度 美馬市戦没者追悼式開催について

終戦から七十五年が過ぎました。去る六月三十日、うだつアリーナにおいて令和三年度「美馬市戦没者追悼式」が行われました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、主催者である美馬市と美馬市遺族会で協議を行い、美馬市戦没者遺族を代表して美馬市遺族会役員のみが出席し、美馬市内十か所ある忠魂碑から御英霊をお迎えし、感染対策を行った上での実施となりました。



来賓は県知事、地元県会議員、美馬警察署長、美馬市市議会正副議長・福祉文教常任委員会正副委員長、美馬市民生委員・児童委員協議会会長、徳島県遺族会会長代理として副会長林取一様にお越しいただきました。

藤田市長が「戦争の悲惨さと平和の尊さを風化させることなく、次の世代に継承し、恒久平和の実現に向け努力していく」とあいさつがあり、参加者が献花台に白菊を捧げました。

県遺族会会長代理から皆様へのあいさつの中には

「平成二十六年十月五日開館以来、約四万人の方が徳島県戦没者記念館に来館があり、また戦没者記念館前には「戦没者を見送った家族像」を平成二十九年十二月二十日に建立、令和二年十月十六日には靖国神社へ「出征を見送る家族の像」を建立奉納していることで、近くに來られることがあれば是非立寄ってほしい」と紹介もありました。

最後に、美馬市戦没者遺族を代表して美馬市遺族会会長がお礼の言葉を加え命の尊さと平和の意味と感謝の心を学べるようにしてほしいとあいさつがあり追悼式は無事終了しました。

藤田市長様、ありがとうございました。

また、準備から当日お世話いただきました、美馬市生活福祉課 藤本課長様、職員の方々にお礼を申し上げます。

美馬市遺族会会長
小笠 功

藍住町社会福祉協議会平和学習 ボランティアスクールが「徳島県戦没者記念館」に来館

藍住町社会福祉協議会が平和学習をテーマに小中学生対象のボランティアスクールを企画し、令和三年八月六日、小中学生と地区遺族会役員や職員など総勢十九名が、平和学習の一環として「徳島県戦没者記念館」に来館されました。平成三十年から八月の夏休み時期に来訪され、今回で三回目となります。

来館当日は、今から七十六年前に広島県に原爆が投下された日でもあり、そのときの体験をもとにした紙芝居「まつ黒なおべんとう」を県遺族会女性部の演部長が語ってくれました。語り手による熱のこもったお話は臨場感にあふれ、子ども達は一途なまなざしで固唾をのんで観覧していました。

その後、約八千名の遺影の写真に圧倒されながら館内を見学し、平和の尊さや戦争の悲惨さをパネル展示・遺品等で学びました。また、特別展で展示されているパネルも熱心に見入っていました。

後日、「約八千人の遺影の中に、最年少十四歳とあり、私達と同じ年で戦場に行ったんだとびっくりしました」、「紙芝居はとても心に残りました」等の感想を頂きました。

今回の来館で、命と平和の大切さについて、考えていただけるきっかけにしたいだけできれば幸いです。



日本遺族会 任期満了で役員改選 第二十四回理事會を書面決議で開催

日本遺族会では、第二十四回理事會を新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面決議で行い、会長、副会長等役員が決定された。

改選後の日本遺族会役員名簿

会長	水落 敏 栄 (参議院議員)
副会長	宇田川 劔 雄 (東京都) 市 來 健之助 (山口県)

徳島県戦没者記念館「あしたへ」
 第十一回特別企画展
 『全国各地の戦争記念館から戦争史実を伝える』を開催



戦後七十五年余が経過する中、「徳島県戦没者記念館―あしたへ―」をはじめとする日本各地の記念館や資料館等では、恒久平和の実現のため、多様な視点で先の大戦の事実と平和の尊さについての展示解説を行っております。

しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、日本各地を訪れることが困難な状況です。

そこで、日本各地の平和・戦争に関する施設等と連携し、それぞれの特色ある展示内容を紹介することにより、一人でも多くの方々に戦争史実や平和の尊さについての知識をよ

り一層深めていただくため、七月三十日から八月十五日まで特別企画展を開催いたしました。

本特別企画展では、全国各地から十八の施設に協力をいただき、各館の外観や展示内容の写真、パンフレットや企画展の案内などを掲示し、それぞれの館の特徴を知っていただく展示内容といたしました。

今回の特別企画展は、新型コロナウイルスの影響もありましたが、夏休み期間中の展示という事もあり、四百五十二名の方にご来館いただくことができました。来館された方の中には学生の方も多く、今回紹介させて

いただいている全国の施設に実際に訪れてみたいといったご意見も聞くことができました。

今後とも当記念館では、戦争に関わる事実を、広く正しく語り継いでいくために、工夫を凝らした展示を企画してまいります。



岡山県護国神社参拝と千羽づる奉納

実施日程：令和3年11月20日(土)

- ◇参加費 一般参加者 15,000円
- 遺族会会員 5,000円
- 同伴する会員家族 3,000円
- (※会員家族のみの参加は5,000円)
- 同伴する会員家族の未成年者 2,000円
- ◇募集人員 40名(最少催行人員15名)
- ◇締切期日 令和3年10月22日(金)
- ◇お申込先 徳島県遺族会事務局
- (TEL.088-636-3212)

11月20日(土)	徳島県護国神社…松茂とくとくターミナル…	09:00	09:25 / 09:35
	…府中湖 PA(休憩)…倉敷美観地区(散策)…	10:40 / 10:50	11:40 / 12:15
	…あちの郷 つね家(郷土料理での昼食)…	12:15 / 13:15	
	…岡山県護国神社(奉納・見学)…	14:05 / 15:35	
	…府中湖 PA(休憩)…	16:50 / 17:00	
	…松茂とくとくターミナル…	18:05 / 18:15	
	…徳島県護国神社	18:40	

戦没者記念館だより — 写真展示数 8,121柱 (R3.8.31 現在) —

▶ 来館者のお声

- 就職試験を受けるために徳島に来ました。徳島の歴史を知りたいと思い来館しました。私は24歳です。同年代や年下の方が戦死された事を知り、なぜここまで多くの方が犠牲にならなければならなかったのか、なぜ戦争をしなければならなかったのか。歴史を知れば知るほど、疑問が深まるばかりです。私達若者が後世に平和の大切さ、命の尊さを伝え続けます。(20代男性)
- ここに来ると心が安らぎます。父の遺影と会話しています。次は孫、ひ孫も連れてきます。今の平和が続きますように。(70代女性)
- 毎年命日祭にうかがっております。関係者の方々の御苦勞や御尽力に心より感謝申し上げます。来年も元気でまいり出来ますことを祈り、皆々様の御健康を祈ります。ただただ感謝のみです。(70代女性)
- 戦争に向かわれた方々の家族への思いが綴られた手紙を見ると心が痛みました。現在コロナで世界中が困難な状況になっている中、人との絆や家族への愛が私にとっては重要でした。来館させて頂き、家族への愛を文章から読み取ることができ、本当に胸を打たれました。(40代女性)
- 丁寧で分かりやすい展示だった。今まで来なかったことを後悔した。一日一日を大切に生きようと思う。(40代男性)
- 終戦日にあたり、戦死したおじを偲んで参りました。このように展示していただき感謝しております。(60代女性)
- 戦争に行かれた方がどのように思い、どのような最期を迎えたか。知らない場所で死んでいく寂しさは私には分かり得ません。しかし、その人を自分の記憶としてたくわえておき、戦争のない世界が来てほしいと願います。(10代男性)

